

淀川製鋼グループ 2026年3月期第1四半期決算説明資料

2025年8月6日

目次

- 1 決算のポイント
- 2 2026年3月期第1四半期 実績
- 3 2026年3月期 業績予想
- 4 トピックス
- 5 参考

1 決算のポイント

決算のポイント

2026年3月期第1四半期 実績

- 需要が低迷する中、1Qでは前年同期比で増収増益
- ヨドコウは主にめっき鋼板の販売量が減少したことから減収減益
- 台湾SYSCO社は国内外でめっき鋼板・カラー鋼板ともに販売量が増加し増収増益

2026年3月期 業績予想

- 2025年5月開示の業績予想から減収・増益に修正
- 前年比では減収減益を予想
- 配当予想を上方修正し中間20円、期末40円、通期60円を予想

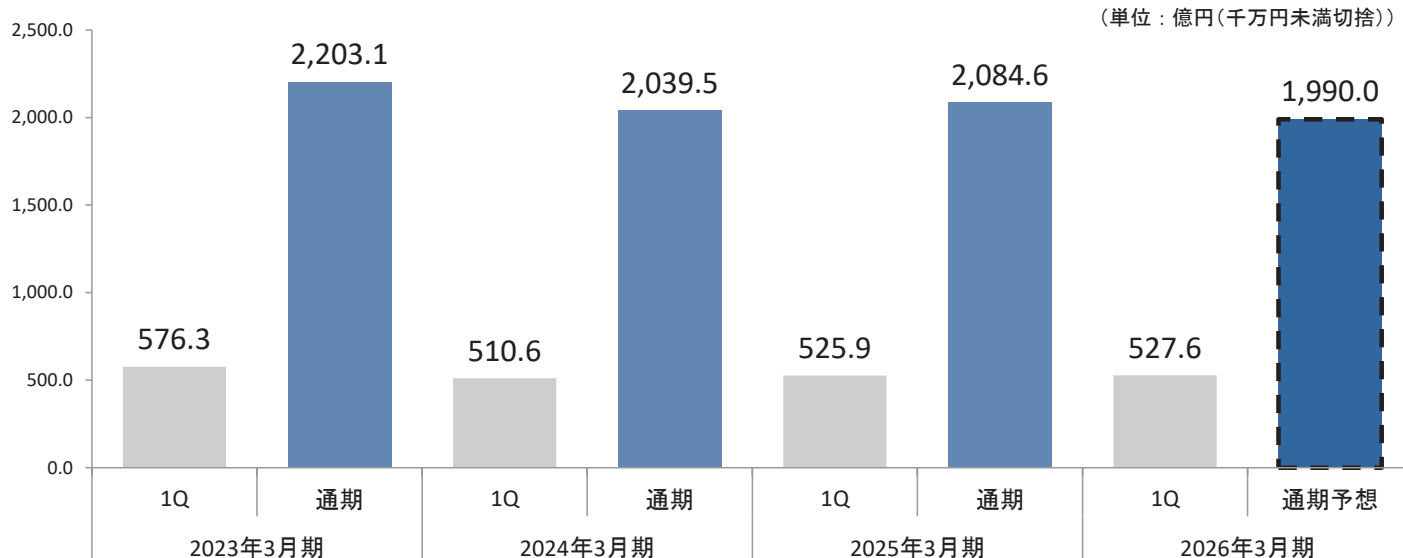
※当社は2025年7月1日を効力発生日として当社普通株式について1株を5株に分割しました。
詳しくは配当のスライドでご説明いたします。

2 2026年3月期第1四半期 実績

連結業績概要

(単位:億円(千万円未満切捨))

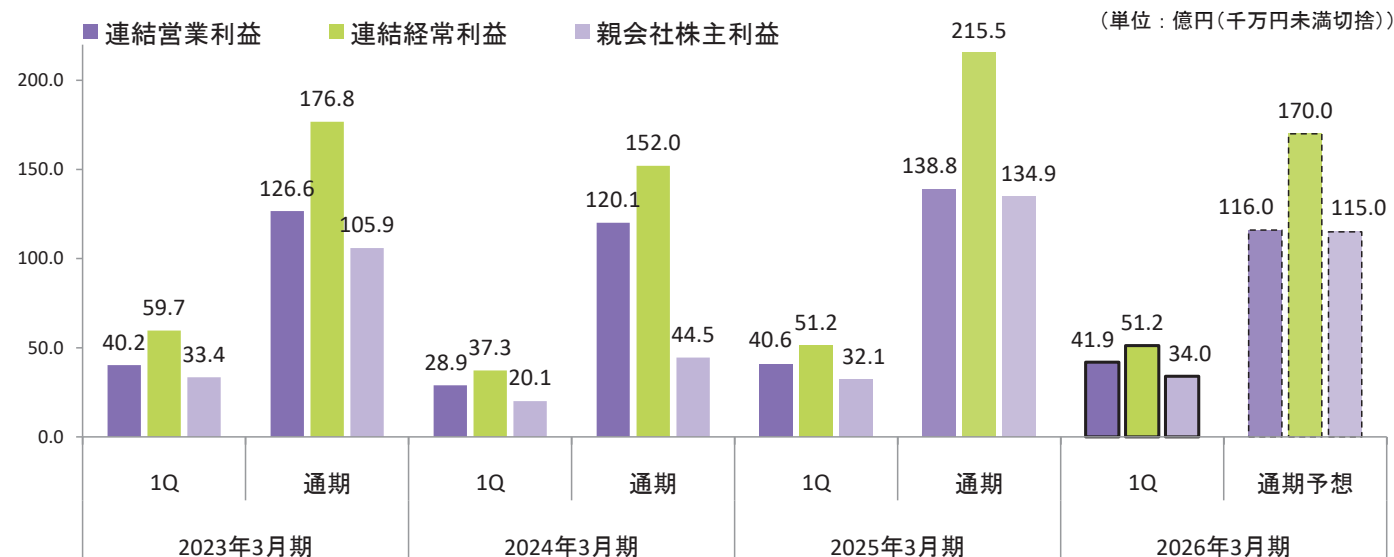
	当1Q	前1Q	増減	増減率	特記事項
売上高	527.6	525.9	1.7	0.3%	<販管費> 広告宣伝費の増加など
(売上総利益)	97.5	89.4	8.0		
(販管費)	55.5	48.8	6.6		
営業利益	41.9	40.6	1.3	3.3%	<営業外収益> 為替差益、受取配当金の減少など
(営業外収益)	9.8	11.2	△1.4		
(営業外費用)	0.5	0.6	△0.1		
経常利益	51.2	51.2	0.0	0.1%	<特別利益> 固定資産売却益 0.5億
(特別利益)	0.5	0.0	0.5		
(特別損失)	0.1	0.2	△0.0		
税引前利益	51.6	51.0	0.6	1.3%	
(法人税等)	14.0	14.6	△0.6		
(非支配株主利益)	3.5	4.2	△0.6		
親会社株主利益	34.0	32.1	1.9	6.0%	<包括利益> 当期:当期純利益 37.6億、その他有価証券 評価差額金 13.0億、為替換算調整勘定 △35.6億 ほか ※前1QのEPSIは株式分割前の実績に1/5を 乗じた値を記載しております。
(EPS(円/株))	23.52円	22.22円※	1.30円		
包括利益	14.2	57.9	△43.7		



【増収 1.7億の主な内訳】

- ・ 淀鋼 $\Delta 21.1$ 億 (336.5億 $\rightarrow$ 315.3億)
ひも付きのカラー鋼板の販売量が前年並みに推移するも、めっき鋼板の販売量は減少
- ・ 台湾SYSCO社 +12.2億 (151.8億 $\rightarrow$ 164.0億)
めっき製品を中心に、市場開拓の成果で台湾国内向け・輸出向けともに販売量は増加
- ・ 中国YSS社 $\Delta 0.1$ 億 (19.9億 $\rightarrow$ 19.7億)
長期化する不動産不況などの影響から回復の勢いは鈍く売上はほぼ横ばい
- ・ タイPPT社 +2.1億 (10.5億 $\rightarrow$ 12.7億)
主力のエアコン室外機向けの需要の高まりにより販売量が増加

連結損益推移



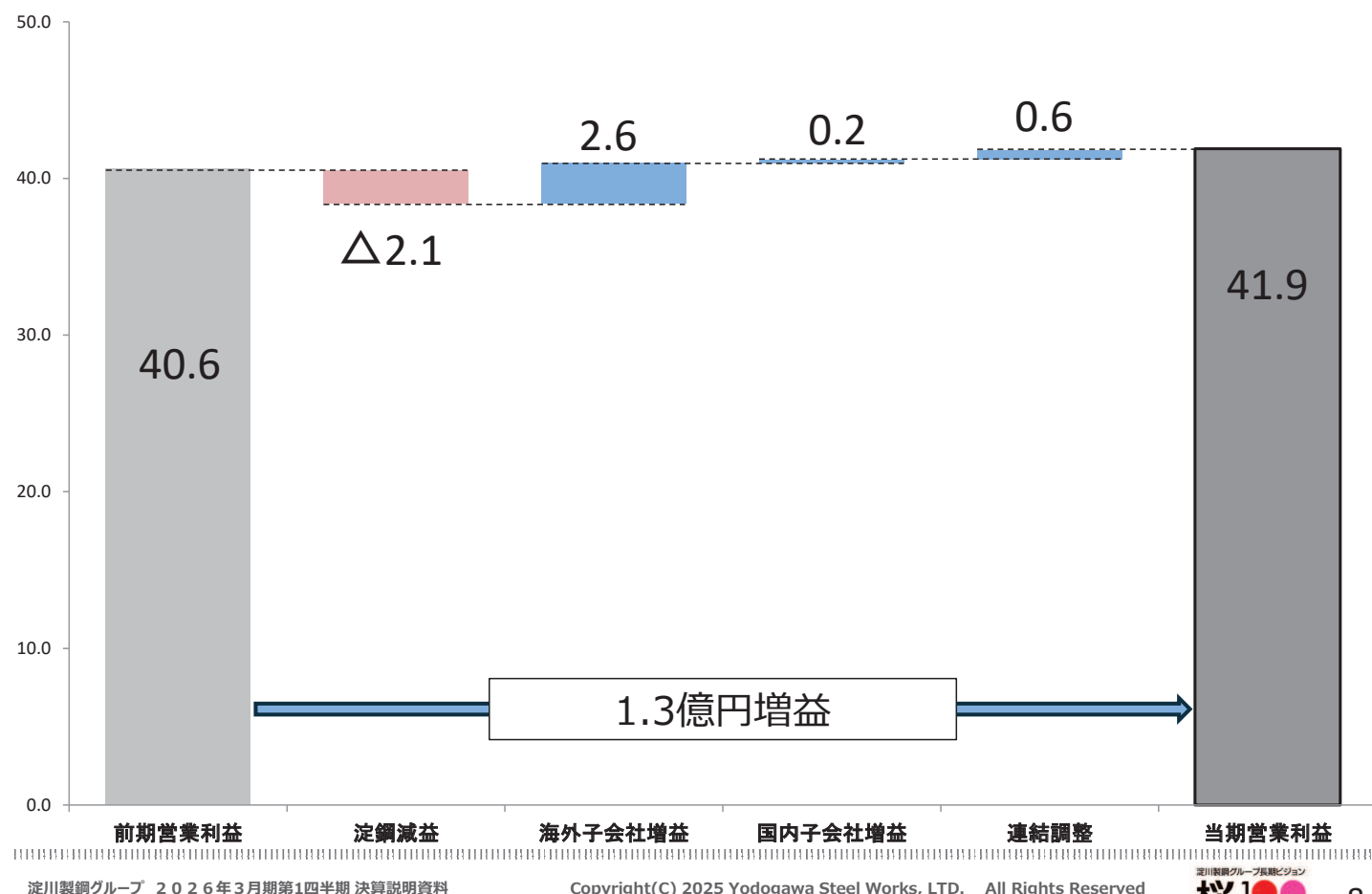
【営業利益 1.3億増益の主な内訳】

- ・ 淀鋼 $\Delta 2.1$ 億 (32.2億 $\rightarrow$ 30.0億)
主にめっき鋼板において、安価な海外材の流入の影響を受け減益
- ・ SYSCO社 +0.4億 (7.5億 $\rightarrow$ 8.0億)
台湾国内向けの販売価格が下落するも、輸出向けの販売価格の改善、国内外向け販売量の増加により増益
- ・ YSS社 +1.2億 ($\Delta 1.8$ 億 $\rightarrow$ $\Delta 0.5$ 億)
販売量は減少するもコストダウンに努め、業績は改善
- ・ PPT社 +0.9億 (1.1億 $\rightarrow$ 2.0億)
収益性の高いエアコン室外機向けの販売量が増加し増益

損益増減要因分析（連結・前年同期比）

株式会社 淀川製鋼所

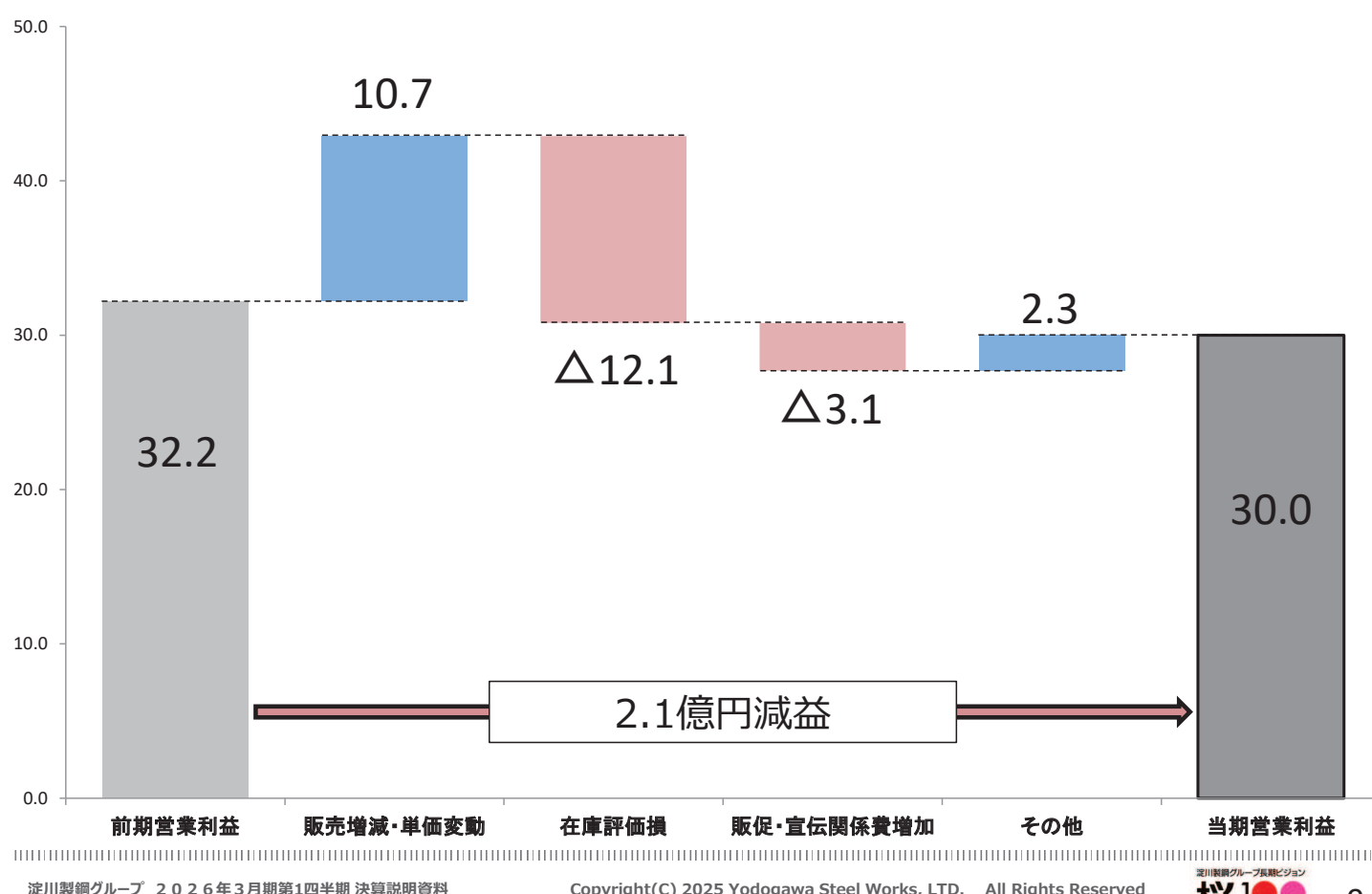
（単位：億円（千万円未満切捨））



損益増減要因分析（淀鋼単体・前年同期比）

株式会社 淀川製鋼所

（単位：億円（千万円未満切捨））



(単位:億円(千万円未満切捨))

	売上高			セグメント利益		
	当1Q	前1Q	増減率	当1Q	前1Q	増減率
鋼板関連	500.9	502.6	△0.3%	42.1	40.4	4.3%
ロール	8.5	5.9	42.6%	0.2	0.0	218.6%
グレーチング	6.9	8.5	△18.6%	0.0	0.4	△80.7%
不動産	3.3	3.2	3.2%	1.9	2.0	△5.5%
報告セグメント計	519.7	520.3	△0.1%	44.4	43.0	3.3%
その他	7.9	5.5	42.3%	1.5	1.5	△1.7%
合計	527.6	525.9	0.3%	46.0	44.6	3.1%
調整額				△4.0	△4.0	—
PL計上額	527.6	525.9	0.3%	41.9	40.6	3.3%

【鋼板業務(日本国内)】

・ ひも付き（特定ユーザー向け）

建材向け：めっき鋼板は一部顧客からは国内材回帰の動きが見られるも、安価な輸入材の流入の影響は大きく、販売量減少。
カラー鋼板は既存顧客のシェア拡大や新規顧客の獲得などにより販売量増加

電機向け：猛暑の影響によりユーザーの需要が増加し、販売量増加

➢ ひも付きではカラー鋼板が堅調に推移した一方で、めっき鋼板の販売量減少の影響が上回り減収

・ 店売（一般流通向け）

住宅向けは価格高騰や建築基準法改正の影響を受け依然として荷動きは鈍く軟調。非住宅向けは店舗・物流関係の引き合いが増加するも店売り全体では販売量減少

➢ 日本国内全体ではひも付き、店売りともに販売量が減少し、減収

【鋼板業務（海外）】

・ 海外

SYSCO社（台湾）：台湾国内向け、輸出向けともに、市場開拓の成果によりめっき鋼板、カラー鋼板両方の販売量が増加

- SYSCO社全体では主に台湾国内の販売価格が下落するも、販売量の増加の影響が上回り増益

Y S S 社（中国）：長期化する中国不動産不況などの影響を受け、回復は鈍く売上は横ばい。コストダウンに努めた結果、業績は改善

P P T 社（タイ）：主力かつ収益性の高いエアコン室外機向けの需要が高まり販売量が増加し、増収・増益

セグメント概況（鋼板関連事業③）

【建材業務（外装建材商品・工事）】

- ・ 外装建材商品全体では、主に屋根材の販売量が減少し、減収
- ・ 工事はゼネコンによる選別受注および工期遅れの影響などを受け、減収

【建材業務（エクステリア商品）】

- ・ ガレージ・大型倉庫は引き続き堅調に推移
- ・ 物置は物価高騰による消費者の節約志向の影響などを受け販売量は減少

建材業務全体では、外装建材商品・エクステリア商品ともに販売数量が減少し、減収

【ロール事業】

- 主に日本国内向け鉄鋼用ロールの販売量が増加し、増収・増益

【グレーチング事業】

- 道路関連工事が低水準であることなどから販売量が減少し、減収・減益

【不動産事業ほか】

- 不動産事業は売上・損益ともにほぼ前期並みに推移
- その他事業は倉庫運送事業などの売上が伸長するも、費用も増加し、増収ながら前期並みの収益

連結財政状態概要

株式会社 淀川製鋼所

（単位：億円（千万円未満切捨））

	当1Q末	前期末	増減	増減率	特記事項
総資産	2,552.4	2,642.5	△90.0	△3.4%	<資産> (流動)現金及び預金の減少など
(流動資産)	1,506.7	1,598.5	△91.8	△5.7%	
(固定資産)	1,045.7	1,043.9	1.7	0.2%	
負債	460.1	491.3	△31.2	△6.4%	<負債> (流動)未払法人税等の減少など
(流動負債)	262.0	297.5	△35.5	△12.0%	
(固定負債)	198.0	193.7	4.3	2.2%	
純資産	2,092.3	2,151.2	△58.8	△2.7%	<株主資本> 当期：親会社株主純利益34.0億、 配当△72.5億など
(株主資本)	1,603.5	1,641.9	△38.3	△2.3%	
(その他包括利益累計)	293.8	305.2	△11.3	△3.7%	
(非支配株主持分)	194.1	203.0	△8.8	△4.4%	<その他包括利益累計額> 為替換算調整勘定の減少23.8億 など
(BPS(円／株))	1,311.84	1,346.74※	△34.90		
自己資本	1,897.4	1,947.2	△49.7	△2.6%	※前1QのBPSは株式分割前の実績 に1/5を乗じた値を記載しております。
自己資本比率	74.3%	73.7%	0.6pt		

3 2026年3月期 業績予想

上期業績予想

(単位:億円(千万円未満切捨))

2026年3月期(上期)		今回予想 (2025年8月6日時点)	前期比 増減	前回予想 (2025年5月9日時点)	前回予想比	
					増減額	増減率
連結	売上高	1,030.0	△2.2%	1,020.0	10.0	1.0%
	営業利益	69.0	△11.7%	59.0	10.0	16.9%
	経常利益	83.0	△9.5%	74.0	9.0	12.2%
	親会社株主利益	55.0	△5.0%	46.0	9.0	19.6%
個別	売上高	610.0	△8.2%	620.0	△10.0	△1.6%
	営業利益	53.0	△13.9%	39.0	14.0	35.9%
	経常利益	80.0	△0.5%	63.0	17.0	27.0%
	当期純利益	59.0	1.0%	47.0	12.0	25.5%

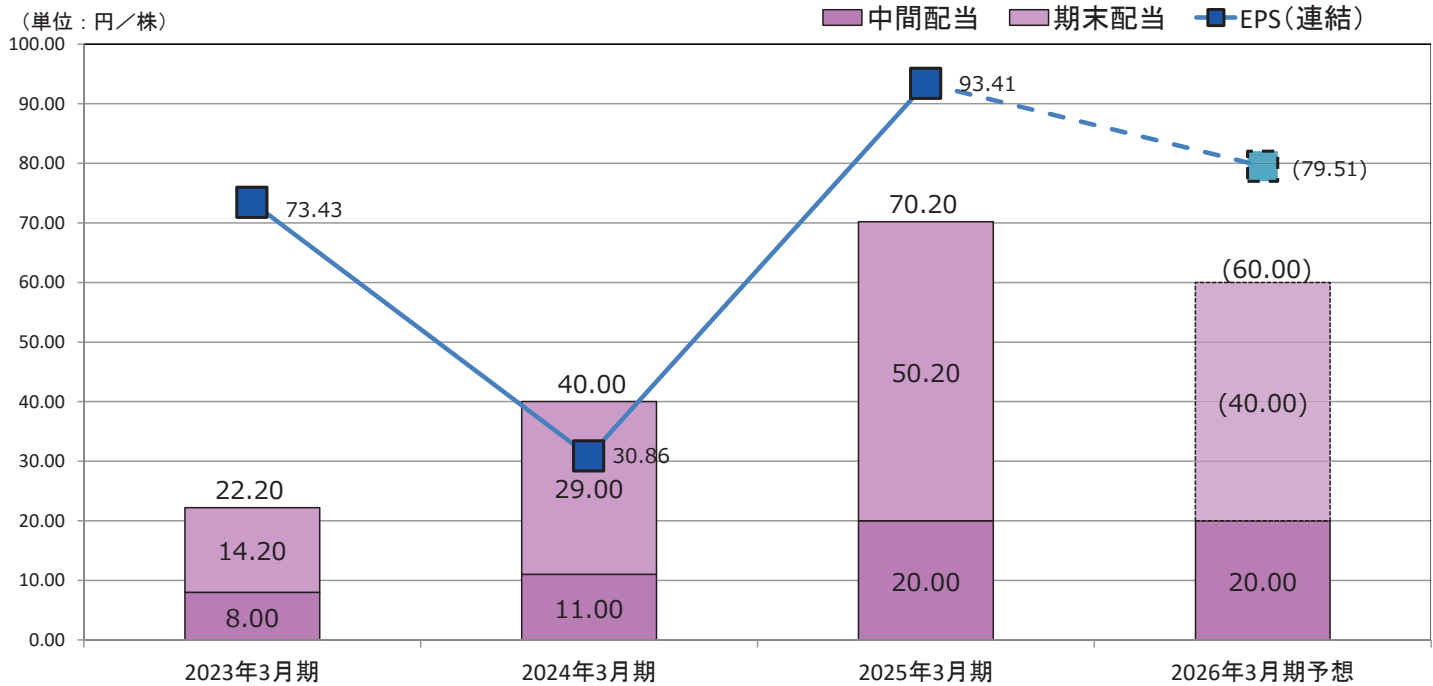
- ・ 上期は、米国関税政策による需給バランスへの影響が想定よりも遅くなっていること、各種原材料コストが想定をやや下回る見込みとなったことなどから、営業利益は前回予想を上回ることを見込む。

(単位:億円(千万円未満切捨))

2026年3月期(通期)		今回予想 (2025年8月6日時点)		前回予想 (2025年5月9日時点)	前回予想比	
		前期比 増減	増減額		増減率	
連結	売上高	1,990.0	△4.5%	2,030.0	△40.0	△2.0%
	営業利益	116.0	△16.5%	114.0	2.0	1.8%
	経常利益	170.0	△21.1%	161.0	9.0	5.6%
	親会社株主利益	115.0	△14.8%	104.0	11.0	10.6%
個別	売上高	1,200.0	△6.3%	1,190.0	10.0	0.8%
	営業利益	94.0	△13.0%	76.0	18.0	23.7%
	経常利益	156.0	△14.9%	128.0	28.0	21.9%
	当期純利益	112.0	△13.9%	92.0	20.0	21.7%

- 通期は、米国関税政策による影響が徐々に現れ始めていること、一部の原材料コストに上昇の動きが見られることなどから上期業績予想と比べて営業利益の上昇幅は小さくなることを見込む。

配当



※ 2025年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております。
上図に記載の配当ならびにEPSは、2023年3月期に遡って調整(分割前×1/5)した値を記載しております。

- 2026年3月期の配当は中間20円、期末40円 年間配当は60円を予想

4 トピックス

トピックス：商号の変更および新企業理念制定等

- 2025年10月1日、商号を「株式会社ヨドコウ」に変更
- 2025年1月30日、ヨドコウグループの新企業理念「咲かせよう。ひと、まち、みらい。」を制定
- 2025年1月30日、企業理念の刷新に伴い、新ロゴマークを開発。2025年10月1日より使用開始予定

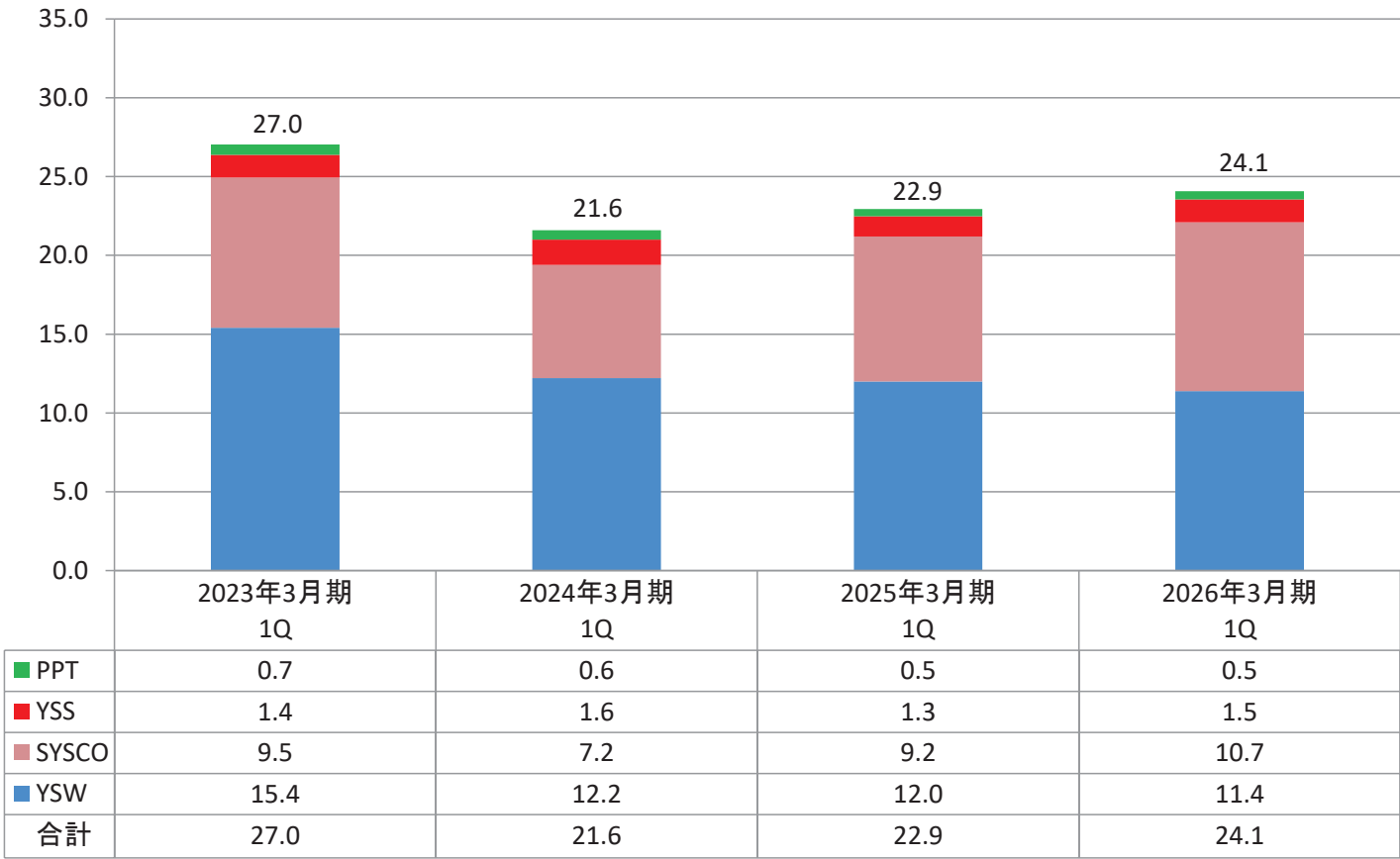




- 株式会社ムラサキスポーツと「自然と遊ぶ人々のために、遊びのモノを収納する」をコンセプトにしたストレージ『KOTO OKI』シリーズを共同開発。
2025年7月より予約販売を開始（出荷は2025年8月開始）

5 参考

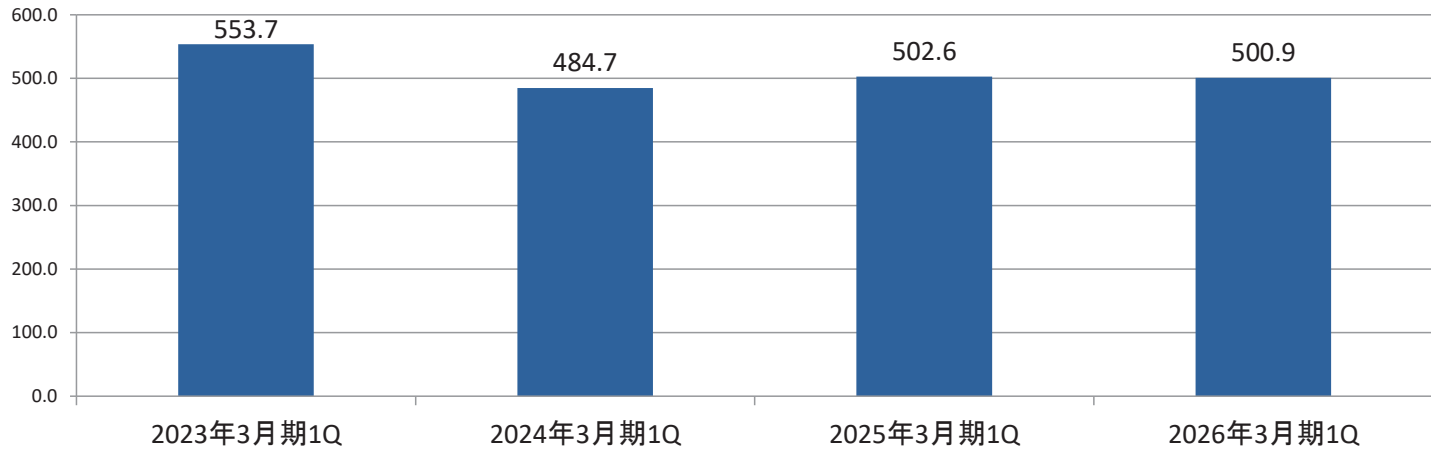
連結消去は考慮せず (単位：万トン)



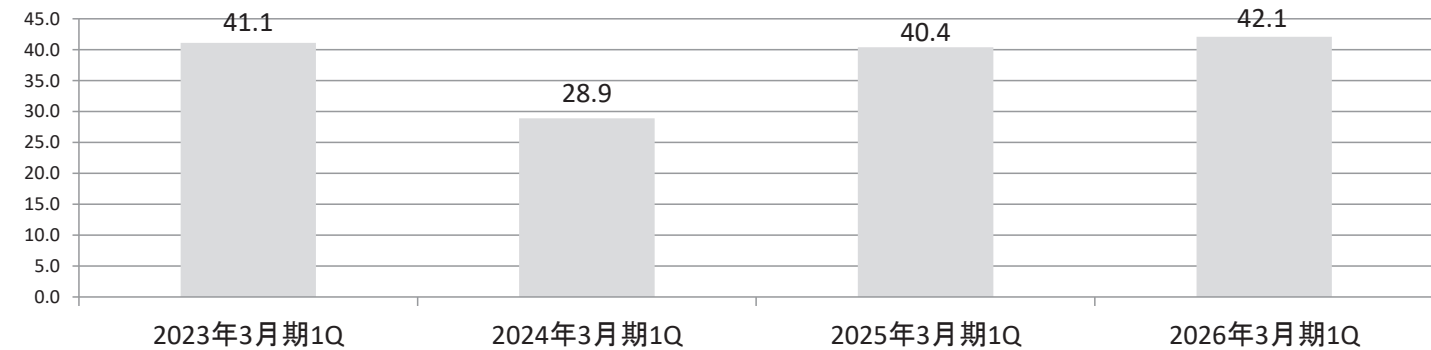
セグメント概況（鋼板関連事業）

【セグメント売上高】

(単位：億円(千万円未満切捨))



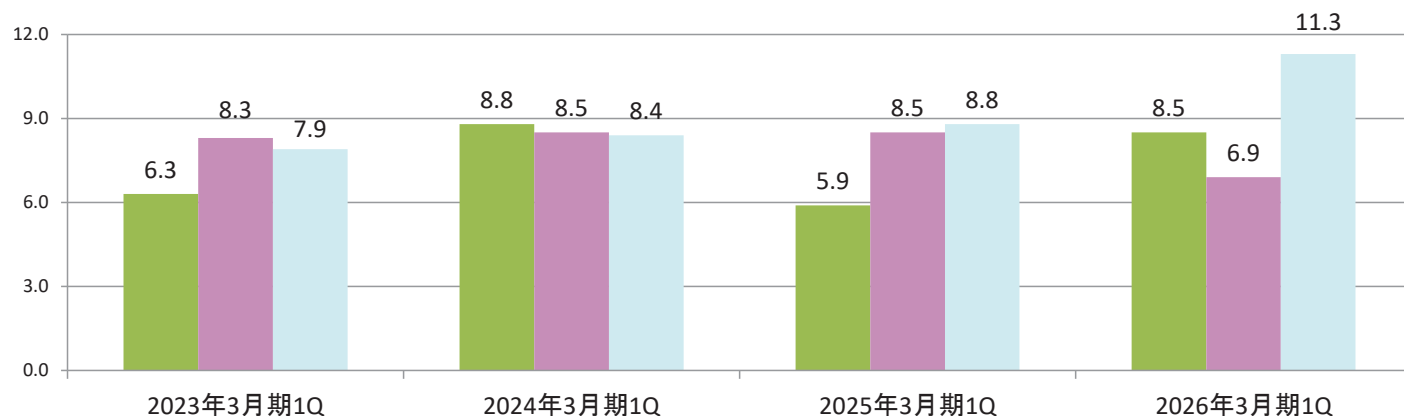
【セグメント利益】



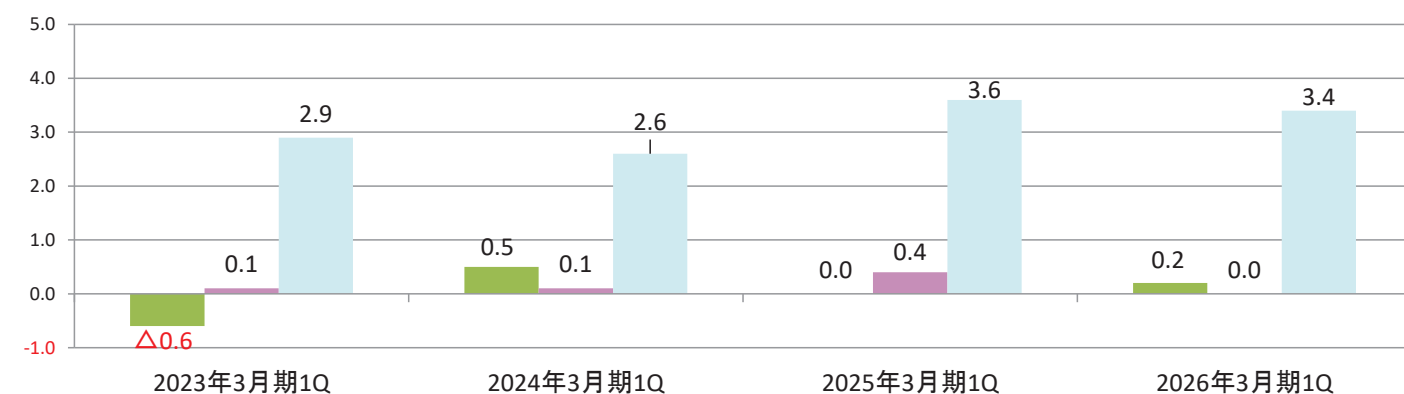
【セグメント売上高】

■ ロール ■ グレーチング ■ 不動産・その他

（単位：億円（千万円未満切捨））



【セグメント利益】



ヨドコウ

本資料に記載されている情報には、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の将来の業績見通しに関するものが含まれていますが、これらは将来の実績を保証するものではありません。実際の業績はさまざまな要因により異なる可能性があることをご承知おきください。